

※書式は特に定めはありませんが、必ず下記の事項を明記の上、応募してください。

葉山町ごみ処理基本計画（案）に対する意見

宛先 葉山町環境課

住所 (所在地)	×××××××××		
ふりがな 氏名 (団体名)	×××××××××	電話	×××××××××

意 見
<p>1. 計画案策定前の作業</p> <p>今回のごみ処理基本計画のように、大きな政策変更を前提としているのであれば、策定作業の前段として、町民の意向確認のためのアンケート、意見交換会などを実施した上で具体作業に入るべきで、前段の作業が欠けている。</p>
<p>2. モニター、モデル地区の評価</p> <p>モニターやモデル地区の選定、結果の分析については、実験以前の数値との比較がなければ、評価は不可能である。良い成果ということは言葉だけではわからない。</p>
<p>3. モデル地区選定の基本</p> <p>モデル地区を選定する場合は、新興住宅地、海岸付近の狭い道路の住宅密集地、山よりの住宅地、県道沿いの住宅地など、葉山の各地域の特徴をとらえて、モデル地区の設定を行うべきである。</p>
<p>4. 説明会、公聴会開催の必要</p> <p>ごみ処理本計画本案は、ごみを出す町民側の理解と協力がなければ、空文となるおそれがある。計画案の段階での住民への直接の説明と対話、公聴会開催などは、今回のような大幅な変更がある場合は、必ず実施すべき。</p>

5. 現場職員との協議

広報はやま5月号は、戸別収集について、あたかも決定事項のような誤解を町民に与え、不安を感じている人も多い。本会議で、ごみ収集に当たる職員との話し合いのないまま戸別収集への移行を進めようとし、組合から協議を求められていることが明らかになった。職員との十分な協議は、行政の大前提ではないか。

6. 基準年の変更と計画の出し直し

計画の数値の基本となる基準年が、平成18年度は、全く根拠に正当性がない。平成20年度を基準年として、計画全体を作り直すべきである。よって、一旦差し戻し、出し直されたい。

7. 焼却炉の外部評価の必要性

現在の古い焼却炉を使い続ける計画とする場合、34年以上経過した炉が使用に耐えるか、外部の専門家による評価を行い、その上で費用対効果を明らかにすべきである。しかし、修繕費用、環境問題、安定した運転など多くの課題があり、見通しを持たない現焼却炉の継続使用は、政策判断として誤りである。

現焼却炉を使用せざるを得ない場合、その使用年数を明らかにし、次の焼却炉に関する具体的な方針を明確に示すのが計画ではないか。

町財政に大きな負担となっているごみ処理費の原因の1つは焼却炉に関する経費であり、その点についての記述が不十分である。

○ 意見の提出方法と提出先

住所、氏名、連絡先、勤務先（必要に応じて）、ご意見を記入のうえ、郵送、FAX、電子メール、持参により役場環境課までご提出ください。

〒240-0192 三浦郡葉山町堀内2135番地 葉山町生活環境部環境課

TEL : 046-876-1111 FAX : 046-876-1717

E-mail : kankyou@town.hayama.lg.jp

○ 意見の提出期間

平成22年5月20日（木）～平成22年6月30日（水）